

## 1. 病棟の具体的な目標と評価

## 1) 安全で質の高い看護を提供する

## (1) 個別性のある看護展開・IC への同席

繰り返し入院する患者・長期入院患者・在宅支援が必要な患者、全 66 名に対して、全ての患者に受け持ち看護師を決定し退院支援調整看護師と共に継続看護できた。IC 同席件数は年 25 件であり、前年度より減少している。これは医師との連携不足により、医師のみで病状説明されたことが要因である。来年度は、IC に同席できるよう医師とコミュニケーションを図り、患者家族の反応など看護記録の充実に取り組んでいく。

## (2) 5B 病棟・外来との連携による継続看護

5B 病棟から 6B 病棟へ転棟してきた児は 12 名であった。転棟決定後、受け持ち看護師を予め決定し、退院支援看護師を中心に早期に情報を得ることができた。5B 病棟へのケア見学を 15 件(前年度 1 件)、カンファレンスを 15 件(前年度 7 件)実施し、患者情報の共有と 5B 病棟からの引き継ぎ事項の確認でき、継続的な看護の提供ができた。その他、退院前後訪問を 5 件(前年度 3 件)実施した。外泊に合わせて退院前訪問を行うことで療養環境と一緒に確認でき、患者家族の不安解消につながったと考える。また、退院後訪問で児の様子を知ることにより、退院前の指導や調整につながる気づきが得られたので今後取り組んでいきたい。

## 2) 病院運営・経営に参画する

## (1) 二次救急受け入れのための環境整備

今年度、医師と連携を図り病室を確保することで、救急車をストップした時間帯は計 4.4 日(月平均 0.4 日)であり、前年度(7 日)より減少することができた。今後も入院の受け入れ体制が充実できるよう医師とスタッフとの連携を図り、病床確保に努める。

## (2) 入院患者数の維持・増加、病床回転率の増加を目指す

今年度入院患者数は、2 月時点のデータで 1 日平均在院患者数 36.6 人(前年度 35.7 人)、平均在院日数 5.1 日(前年度 4.9)、病床利用率 73.2%(前年度 71.4%)、病床稼働率 87.8%(前年度 88.1%)であった。医師と連携を図り病床運営を行うことで、平均在院日数は短縮し、平均在院患者数や病床利用率は増加した。今後も入院受け入れ体制を充実し、施設基準の維持に努める。

## 3) 患者の視点に立った医療安全を推進する

## (1) 事故防止のために各種マニュアルを遵守する

(2) インシデント再発防止に向けて、週 2 回朝のミニコミ時にインシデントの振り返りを実施するとともに毎月集計しスタッフへ向けて掲示した。掲示することでインシデントに対する意識が上がり、インシデント対策の周知にも繋がった。また、退院時の忘れ物が 4 件発生したが、退院時チェックリストの改訂、チェックリストの使用を徹底することで、退院時の忘れ物予防に繋がった。

## 4) 専門職業人としての能力開発に努める

## (1) 専門職業人としてのスキルアップ

勉強会は 35 件/年実施した。開催頻度は、平均 2.9 回/月で、予定している勉強会は対象者を 1~2 年目に設定していたため、他スタッフの参加は少なかった。追加の勉強会はあまり開催出来ず、スタッフの学習ニーズに即した内容の検討が必要である。デスクカンファレンスは 1 件行い、終末期の看護について考えることが出来た。

## 5) 看護の先輩として学生の指導に携わる

### (1) 看護学生の実習環境の整備

実習指導者とともに、実習指導者が休みの場合の学生担当を選任し、切れ目のない統一した指導を行った。また、学生指導に専念できる体制と関係者の連携を継続できた。専用の申し送り用紙で引き継ぐことにより、学生のレイダイスに合わせた指導、統一した指導が継続的にできるようになった。

### 6) 活気ある職場、元気の出る職場づくりを推奨する

#### (1) 年休の取得向上と休憩時間の適正な取得

今年度の年休取得は平均 8.7 日/人と前年度より減少した。リフレッシュ休暇については、スタッフ全員取得できた。勤務時間内の休憩時間は、日勤はほぼ休憩が取れているが、夜勤時は緊急入院患者の対応や患者の状態変化等で 60 分の休憩が取れない日もあった。しかし、休憩の必要性を伝え続けることで休憩をとる意識がスタッフに浸透しており、複数に分けてでも取得するようになった。引き続き、夜勤帯の休憩時間確保ができるよう、業務改善や意識の向上に努めていく。

## 2. 病棟運営状況

表1 令和元年度 病床運営状況

収容可能 病床数(床)	診療科名	月平均		平均在院 患者数 (人)	平均在院 日数(日)	病床 利用率 (%)	病床 稼働率 (%)	死亡者 数(人)
		新入院 患者数 (人)	退院患者数 (人)					
50	小児科 小児外科	218.3	220	36	5.0	72.1	86.5	3

## 3. 看護体制

表2 令和元年度 看護体制

配置人数(人)	看護方式	夜勤体制(準:深)
49	固定チームナーシング*	6:6

## 4. 研究業績

### 1) 看護研究発表・研究発表

発表演題名	発表者	学会名等	開催地	開催日
小児病棟のお楽しみ会にイメージキャラクターを導入した事による子どもへの影響—家族へのインタビューと子どもの観察を通して—	黒川里美	第 24 回 岡山小児医療研究会	岡山	2019 年 6 月 2 日
小児病棟のお楽しみ会にイメージキャラクターを導入したことによる子どもへの影響	丹彩子	日本小児看護学会 第 29 回学術集会	札幌	2019 年 8 月 3 日
手術を受ける子供の家族の思いに対するそれぞれの場面での看護の認識—A 病院小児病棟看護師へのアンケートを通して—	佐久間彩 乃	看護研究発表会	院内	2020 年 2 月 8 日

### 2) 講演会、講義、研修会等

講演会、講義、研修会名	講師名	主催者名	開催地	開催日
BLS 研修	最上友美 谷本恵一	訪問看護ステーション エール	岡山	2019 年 11 月 23 日